

第1回「文芸思潮」イラスト・漫画賞発表

大賞

イラスト部門

「此处」「船」 酒井麻以子（東京都江東区）

表紙絵部門

「獲得」 京野ユキ（静岡県沼津市）

「文芸思潮」編集部

第一回「文芸思潮」イラスト漫画賞に多数の御応募をいただきまして、まことにありがとうございます。応募審査料のご協力を仰いだにもかかわらず、下は一〇代から上は七〇代までの幅広い年齢層、そして海を超えて多数のご応募を頂きました。

おかげさまで、初回から一〇〇点を超える一四一点の作品が集まり、充実したコンテストとなりました。心から御礼申し上げます。

応募作の中から、五十嵐勉、富久田純の編集部選考委員により厳正な審査を行い、以下の通り決定しましたので、ここに発表させていただきます。

なお、より多くの方に作品を目にして頂くため、当初予定の「エッセイ宇宙5」から「文芸思潮」ウェーブ38号に今回、各部門の大賞から優秀賞までの作品を掲載することにいたしました。

また、「優勝賞」の下に「奨励賞」と「入選」を設け、すぐれた作品をより広く顕彰することとしております。

奨励賞および入選の作品の中にも優れた作品が多くありますので、それらの作品も、できるだけ「文芸思潮」ウェーブおよび「エッセイ宇宙」に掲載させていただく予定です。

イラスト・漫画賞の授賞式は、銀華文学賞、エッセイ賞、現代詩賞と併せて、明年一月二三日午後二時より東京・神楽坂の日本出版会館にて行なう予定です。受賞者以外の方も受け付けておりますので、お誘いあわせの上ぜひ御出席ください。

優秀賞

イラスト部門

「職人の風景1」「職人の風景2」

生方金一（群馬県渋川市）

「日曜日のために」「ぶき」

鈴木朝子（茨城県土浦市）

「A spell I」「A spell II」

鯉の煮付け（秋田県秋田市）

「思考回路」 松藤千佳（奈良県生駒郡）

奨励賞

イラスト部門

「油断大敵」「無題」 宇内 翠（神奈川県横浜市）

「女の子」「アコウの木」 久住 恵（神奈川県鎌倉市）

「無題」 高野仁志（東京都小金井市）

「無題」 Hyung Bin Lim（韓国ソウル市）

「青い秘密」 猛牛娘（新潟県長岡市）

「無題」「無題」 イシカワチヒロ（福岡県福岡市）

「無題」「無題」 柚木 連（宮城県塩釜市）

「Night of October 31」 木立かける（神奈川県横浜市）

「大きな角」 長谷川智英（神奈川県相模原市）

「無題」「無題」 mosco（福岡県速賀郡）

「無題」「無題」 YN（福岡県春日市）

「ゆきむし」「てのひら」 佐久間 恵（東京都墨田区）

「無題」「無題」「無題」 渡辺真也（東京都板橋区）

「無題」 林 信康（東京都日野市）

「無題」 Kanza（韓国慶尚南道昌原市）

「白ねこハースは七色不思議」ねこちえみ（北海道札幌市）

「非正常」 YOHATI（韓国ソウル市）

「フローラ」 関根弘湖（静岡県三島市）

表紙絵部門

「お花畑で散歩」 Tommy（北海道勇払郡）

「金の桜」 久住 恵（神奈川県鎌倉市）

「住むまち」 長谷川智英（神奈川県相模原市）

イラスト漫画部門

「はげぐち」 映介（大阪府吹田市）

ストーリー漫画部門

「もう一人のぼく」 のまあ（愛知県名古屋市中）

「チビ旦那」 孫 承衍（韓国仁川広域市）

表紙絵部門

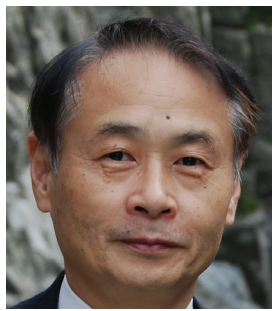
- 「陰気な妖女」 汝何（北海道札幌市）
- 「今いる場所」 百谷住高（奈良県奈良市）
- 「ある名門家の男」 ROY（広島県尾道市）
- 「peaceful」 けせらせら（大阪府池田市）
- 「無題」 桃太郎（神奈川県横浜市）
- 「無題」 林 信康（東京都日野市）
- 「皇の血族」 マリー・A（東京都武蔵野市）

イラスト漫画部門

- 「これが本音」 山口テツ（栃木県宇都宮市）
- 「このキズを消してくれ」 中川 航（東京都小金井市）
- 「エレベーター」「信号機」 まえかわひろし（大阪府堺市）

ストーリー漫画部門

- 「8番目の扉」 松岡希草（千葉県柏市）



選考委員紹介

五十嵐 勉
 いがらし つとむ
 1949年山梨県生まれ
 早稲田大学文学部文芸科卒業
 「流瀆の島」で第2回群像新人長編小説賞受賞
 「東南アジア通信」「アジアウェーブ」編集長
 「緑の手紙」でインターネット文芸新人賞最優秀賞
 「鉄の光」で健友館文学賞受賞
 現在「文芸思潮」編集長
 「詩誌『帰郷者』の栄光と悲劇」を連載中

富久田 純
 とみくだ じゅん
 1978年神奈川県生まれ
 3歳までブルネイで育ち、10代と20代をシンガポールで過ごす
 University of Leeds（イギリス）卒業
 シンガポールで本業の傍ら、現地情報誌で舞台芸術に関する取材記事・批評を連載
 現在、「文芸思潮」および「アジアウェーブ」の編集員
 「シンガポールの文芸事情」など掲載

入選

イラスト部門

- 全部小沢が悪い／バンコクが、燃えている 石田 克
- 無題／無題 Shiyu 星
- 無題／無題 伊藤真弥
- 無題 冥加日和
- ゆかいな仲間達 加藤由記
- 無題／無題 T of TAS
- 船に都市 人誠
- 無題 たかし
- 無題 ○
- 無題／無題 木村智美
- 無題／無題／無題 小田むつえ
- 無題／無題 桃太郎
- 眠り姫 二平晴香
- アドバイス／天気者 ユキオ
- 無題／無題 沙葉
- 無題／無題 Lee Ji-hye Seui
- 冬がやってきた HATY 薮田

表紙絵部門

- 雪解け 友広 剛
- 走れ！リレー みなみ椰子
- 無題 菅原飛車
- 闘い リリア
- 無題 KAR Akiko
- 裸 村上美然
- シリウスのマーメイド 棚谷大地
- 無題 那須年明
- Piece of peace きむらかなえ

イラスト漫画部門

- 困った時の・・・ 石川ゴエ
- 地球温暖化 中西伸治

ストーリー漫画部門

- いしだ 井上杏花
- 初夏 阿波ゆき

選評

アジアからのイラスト・漫画



五十嵐 勉

初めてのイラスト・漫画賞で、どのように応募してくるか、期待が大きい分、不安もあった。しかし蓋を開けてみると、意外なことが多く、あらためて現代の若者の創造の広範性を思い知らされた。

期待の中には、一つには、風刺漫画があった。外国の風刺漫画に比べて日本の風刺漫画は貧弱で、政治や社会をしっかりと、しかも胸のすくように切り裂いているものはほとんどない。アジアではもっと痛烈なものがたくさんあり、それが政治に対しても社会に対しても重要な役割を果たしている。新鮮な鋭い風刺漫画は日本でももっともっと開拓すべきだという思いがあった。また、ストーリー漫画にも、題材によってはこれまでにな分野や表現が可能であり、昔の「ガロ」のようにそこに硬派の漫画が登場してもいいという期待があった。イラストも、もっと多彩でエネルギー的な表現が飛び出してきていいのではないかと、若者らしい、あるいは挑戦的な表出が新しい領域を作っていいのでは、という思いがあった。

「文芸思潮」という文芸雑誌でこういうことをやるのは、まったくの冒険であり、どんなことになるのか、あまりの向こう見ずに、あきれた読者もいたかもしれない。非難を浴びることは覚悟で、この新しい領域の開拓に挑戦した。なによりも、イラストや絵という新しい自由な表現形式に、若い世代のエネルギーが渦巻いている気がしたし、そこから湧き出すものを汲み取っていくことは、大きな可能性を持っているように思えたからだ。アジア文化社というこちらサイドにこの領域の実績がない以上、最初は応募者も半信半疑だろうし、応募数も少ないだろうとは思っていたが、予想はある程度は当たり、ある部分は大きく外れた。

りとしたやさしさも脈打っている。大きな葉が船になっているところなど、単にリアリズムではない空想の翼と静かさが備わっている点にも、染み入る雰囲気を感じられた。

表紙絵部門の大賞・京野ユキ氏の「獲得」は、大胆なぼかしがむしろ強烈な色彩を浮き上がらせてくる技法で、鮮烈な一つの世界を成り立たせている。個性は最も鋭い作品だった。表紙だけでなく、布作品などにも領域を広げていける才能を覚えた。

一コマ漫画部門優秀賞の「はけ口」(映介)は、鋭い批評を備えた作品で、現代の無言葉、無音声の世界を痛烈に浮かび上がらせている。よく見ればグロテスクな現代の一面を剔出している。

奨励賞にもたくさんのお優れた作品が集まった。こうした作品を掲載させていただくだけでも、雑誌がひじょうに豊かになり、賑わっていくことを実感した。

現在の紙の雑誌では、これらの作品のすばらしい色彩をお伝えできないのが残念だが、インターネットでも作品を発表するので、ぜひこちらも見ていただきたい。インターネットによるメディア表現も用いて、このイラスト領域の創造をもっと奨励し、互いに楽しみながら向上を目指せるよう努力していきたい。

来年はさらに多くの、優れたワクワクするような作品がたくさん寄せられてくることを期待している。アジアなど海外からの描き手もさらに多くの反応が返ってくることを強く望んでいる。

世界の中心の Manga



富久田 純

文芸誌の「文芸思潮」で今回初めてイラストと漫画の募集をかけて、イラスト九四点、表紙絵二七点、一コマ漫画一一編、ストーリー漫画九編が

なによりも予想外だったのは、外国からの応募である。韓国から、若い世代がたくさん応募してきてくれた。アジアからの応募があったことは望外の喜びだった。これはインターネットを通じて、あらためて現代のメディアの様変わりや可能性を感じないではいられなかった。ストーリー漫画優秀賞の「チビ旦那」(孫承衍)は、絵もいいし、なによりも題材が日本ではお目にかからないものだけに、新鮮で、こういう方法によれば、文化や社会の相互理解や疎通は大きな可能性を持っているということを感じさせられた。たとえばこの方法で韓国の歴史や、秀吉の朝鮮侵略などを描くことによって日本人がもっと知らなければならぬ世界を開いてくれるかもしれない。そういう意味では、こちらが目を開かされる気がした。ストーリー漫画では「もう一人のぼく」(のまあ)も、やや説明が多い恨みはあったが、多重的人格と家庭内暴力の危うい世界を演出して、市販の漫画では目にするのできない領域を開いていて、一つの立脚点を感じた。表現する内質をしっかりと持っている者にとって、漫画は有力な表現方法であり、大きな可能性を持っているものであることを確信させられた。

今回大賞はイラスト部門だけだったが、優秀賞のなかには大きな可能性を持っていると感じる描き手が少なくなかった。生方金一氏の「職人の風景」は、労働の現場をあたたかいたタッチで描いて、働く人間のやさしい熱さを伝えている。ここには何か「信頼」のようなものが感じられる。「日曜日のために」「ふき」(鈴木朝子)もやわらかい細密な筆が、心の中の豊かなぬくもりやいとしさを表して、引き寄せられるものがある。「思考回路」(松藤千佳)も意表を突く着想が美しさに変化していた。

表紙絵部門は、そのままハードカバーの表紙に使えそうな作品がいくつもあり、絵に合う内容の小説や物語や詩などがあれば、すぐにもお願いしたいような厚みのある作品が多かった。たくさん描き手がいて、層の厚さを感じたジャンルだった。

今回はイラスト部門からの大賞は、「此処」「船」の酒井麻衣子氏だったが、これも今回のアジア世界を象徴して、広がりや息を感じた絵だった。ベトナムの少女のように見えるし、少数民族の少女のように見えるが、そこに共感し合う一つのあたたかい人間のつながりが見えるところに、確かな人間の眼差しが潜んでいる。やわらかいタッチで動物を包むほんの集まった。

日本語でしか募集していないこの賞に、韓国からの応募があった。七人の内五人は入賞し、特にストーリー漫画部門では朝鮮王朝に時代設定した「チビ旦那」(孫承衍)が「もう一人の僕」(のまあ)と並んで優秀賞に輝いた。

第一回目から国際色の豊かな賞となったのは予想外であり、年齢も下は一四才から上は七三才と幅広い層から応募があったことには、国際的な評価を受けるイラストレーターや漫画家を輩出する日本における、イラスト・漫画愛好者の層の厚みをあらためて感じた。

応募者層の豊かさを反映して、集まった作品もバラエティーに富んだ。イラスト部門では優秀賞「職人の風景」(生方金一)や「日曜日のために」(久住恵)のような鉛筆の持ち味を生かした作品から、奨励賞「Night of October 31」(木立かける)や「A Fall」(蝶の煮付け)のようなアニメタッチの作品と、実に多彩な個性が競い合った。漫画部門でも社会性の強い「もう一人の僕」(のまあ)からシニールな少女漫画「8番目の扉」(松岡希草)など、幅広いジャンルの作品が集まった。

私はシンガポールとイギリスに住んだ経験があるが、どちらの国でも日本のイラスト、漫画やアニメーションをきっかけに日本文化に興味を持ち、日本語を勉強したり、日本に留学・就職する若者に出会った。

文学に対してイラスト、写真や漫画を文化的に下位に位置づける人々がいるが、ジャンルに拘らず良い作品には人生の方向性に影響を及ぼす程の力がある。

海外からの応募が多かった背景には、日本の歌手や俳優のアジア進出も一因として挙げられるだろう。韓国からの応募してきた Kanza & Lee Ji-hye Seui の作品は、それぞれアイドルグループ「嵐」の大野智と歌手の安室奈美恵をモデルにしている。漫画が原作の日本のテレビドラマが台湾や韓国でリメイクされ、ドラマや出演者の人気との相乗効果で原作漫画も現地で知名度を高める現象が起きている。もちろん、日本へも韓流ドラマや華流エンタメが輸出されており、双方通行の交信によってマスカルチャーはグローバル化している。実際、日本人の私でも知らない日本の漫画やドラマをマレーシア人やイタリア人が知っていたことも度々あった。インターネットの普及によって、漫画・アニメ愛好者間の情報交流はどんどん

イラスト・表紙絵部門大賞作者紹介

酒井麻以子

さかい まいこ

1986年生まれ 大阪府出身
京都嵯峨芸術大学 短期大学部 卒業
現在、東京都内で活動中



受賞の言葉

久々にどきどきさせられました。とても嬉しい賞をありがとうございます。
友人がカンボジアに旅行した際、地元根付く遺跡のことや、同じアジアで日本とはまったく異なる生活水準など、興味深い話を聞くことができ、いずれ自分の目で、足で訪れてみたいと思われました。同時に自分の知っている世界の小ささに気づくことにもなりました。
絵は、見せてもらった写真の中で、まなざしが印象的だった子どもたちをモチーフにしました。
空気の匂いや温度を想像しながら描いたものですが、今度は実際に体感した上で絵にしてみたいです。きっと少なからず変化があると思います。誰かの目に留めてもらえたこと、感謝しています。



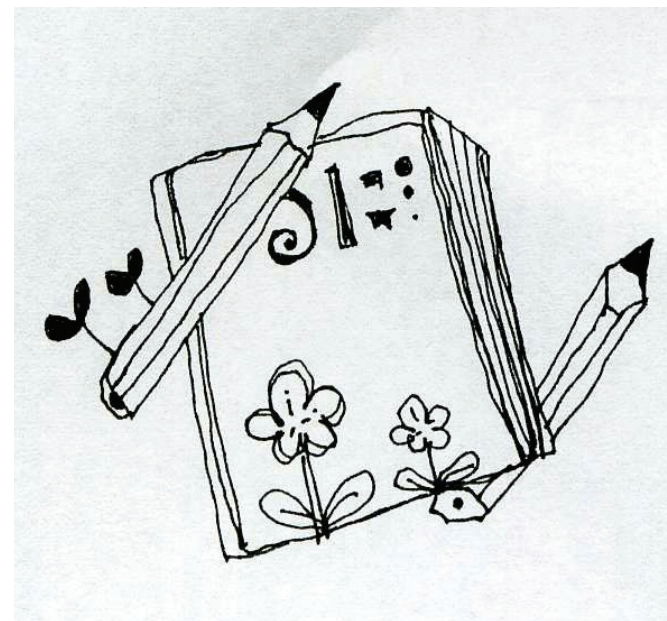
京野ユキ

きょうの ゆき

1973年生まれ
美術系専門学校卒業後、出版社勤務
イラスト掲載等を経、漫画、映画、音楽に触れる日々

受賞の言葉

此の度、第1回となるイラスト漫画賞・表紙絵部門の大賞の受賞という知らせを受け、大変驚きと嬉しさを感じております。ありがとうございます。
自分の色を出した描きたい絵が選ばれたということがなにより嬉しいことです。日本文学、文芸誌と聞くと敷居が高いようにも感じられましたが、装丁や挿絵、こういったところに自分の絵が入ったらと想像も膨らみ、応募に至りました。
今回、四つある部門それぞれ魅力的でどの部門にすべきか少し迷いましたが、やはり好きなカラーで描きたい、見せたいという気持ちで自分好みのレトロさや毒のようなものを出した絵が描け、表紙絵を選んで正解だったようです。
このような素晴らしい賞を戴くことができ、感謝御礼申し上げます。この賞をいただけたことが今後の絵に繋がる仕事や描く活力になるよう、今後とも独自の表現をしていけたらと思います。



活発になっている。
エッセイ賞でも中国人留学生の書いた「虹架かるたびに」(李湘)が、「文芸思潮」エッセイ賞史上外国人として初めて当選に選ばれており、国際政経の舞台のみならず文芸の分野でも「アジアンパワー」が存在感を増しているのを編集の現場で強く感じた。現代詩賞でも、フランスやロシアなど海外からの応募が入賞している。「文芸思潮」の主催する文学賞で国際色が年々増していることは、アジア文化社のもう一つの活動の柱である「アジアウェブ」が掲げる「国を超えた文化交流」の実現を目的の当たりにしていることでもある。

日本人の応募者からも、アジアを題材にした作品が複数寄せられた。イラスト部門大賞に輝いた酒井麻以子の二作品は、「此処」の少女の力強い瞳と、幻想的な「船」の対照的なタッチで、アジアの多様性をうまく捉えていた。欲を言えば、もっとアジアの力強さを伝える生々しい迫力が絵に欲しかった。作者も「受賞の言葉」で述べている通り、現地の空気に触れることで、作品のリアリティが磨かれる可能性に期待したい。
表紙絵部門大賞「獲得」(京野ユキ)は大胆な構図と鮮やかな色彩で目をひいた。着物姿の女性が男性をマスコットのように扱っている、今の男女の力関係を風刺したユーモアセンスも評価された。
漫画賞では、一コマ・ストーリー漫画の両部門で大賞が出なかったのは残念だった。ストーリー漫画部門優秀賞「もう一人の僕」(のまあ)は、作者が心理学の専門家、核家族における母親の孤独、父親の存在感の薄さ、児童虐待の発見の難しさなど、現代日本における問題を多く盛り込んでいる。ただ、知識が前に出すぎて漫画としては説明書きが過剰である。もっと絵の表現力でストーリーを語る技術が欲しかったし、主人公が死後、虐待死した息子の霊と簡単に和解してしまうラストも物足りない。
一コマ漫画部門優秀賞「はげぐち」(映介)は、携帯電話に依存する時代を絵だけでうまく風刺したが、絵の個性が物足りず大賞獲得には至らなかった。
軍事力や経済力など対外的な強制力である「ハードパワー」に対し、その国の文化や政策の魅力などに対する理解や共感を通じて国際社会における信頼と発言力を獲得し得る力を「ソフトパワー」と呼ぶ。シンガポール

では二〇〇七年に、二日間にわたる漫画・アニメのコスプレ・イベントが、日本では渋谷や銀座にあたる中心街で開かれていた。昨年末に訪れた折には、秋葉原やコミックマーケット訪問をメインにしたツアーを旅行会社が企画していると、現地のメディア関係者から聞いた。漫画・アニメの、国際交流や観光業を初めとした産業への貢献度は決して小さくない。
およそ二〇年前、シンガポールのインターナショナルスクールに転校した時に、韓国人やインドネシア人のクラスメートと「ドラゴンボール」の話題で打ち解けた思い出を、審査をしながら思い返していた。習慣も歴史も異なる人間が共通の話題を持つという奇跡に近い出来事を、選考を通じて日本で今また体験している現実に未来への可能性を感じる。(敬称略)